



第29回上田八木・金融政策サーベイ(2019年7月)の結果について

～全回答者(166先)の95%が今回のMPMでの政策変更なしとの見方。3か月先の金利予想では、2年利付国債金利、10年利付国債金利において前回に続き低下との見方。

2019年7月26日(金)
上田八木短資株式会社

【調査の総括】

- 全回答者(166先)の95%が今回のMPMでの政策変更なしとの見方。なお、緩和の見方も増加(5%,2016年9月以来)。
- 3か月先の金利予想に関しては、総じて不変との見方が支配的。ただし、「2年利付国債」「10年利付国債」については、前回同様に低下方向の見方。
- 「出口開始時期」に関しては、前回同様「一年以上3年未満」と回答する先が拮抗している。

【調査の概要】

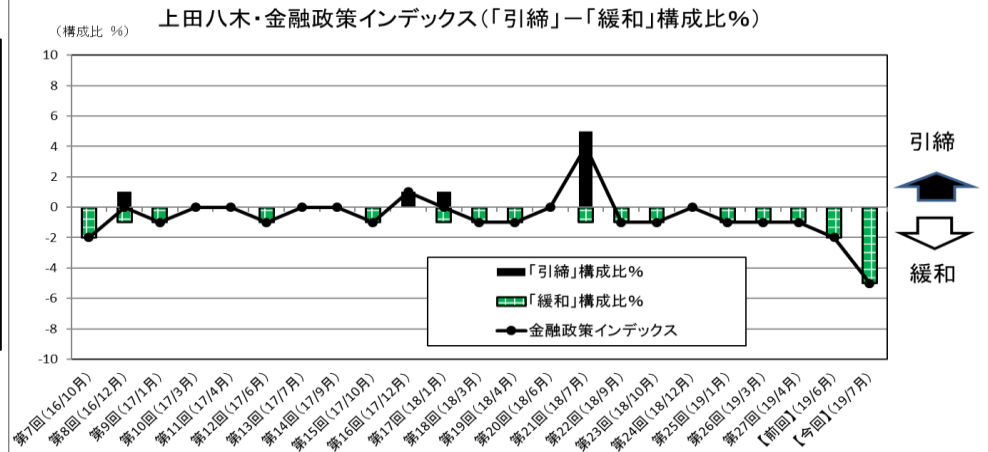
調査対象	弊社と取引のある銀行、証券会社、保険会社、事業法人などの市場取引関係者(186先)
調査内容	日本銀行の金融政策決定会合における結果予想と、3か月先の金利見通し
調査方法	2019年7月23日～25日の3営業日間、電話等によるヒアリングにより実施
回答率	89.2% (回答者数166先<Q1における回答者数>)

【調査結果】

(Q1) 日本銀行の次回の金融政策決定会合(7月29日～7月30日)における決定について

回答者の95%が「不変」の見方。「緩和」の見方は5%(2016年9月以来の水準)。「引締」は0%。

上田八木・金融政策インデックス(「引締」-「緩和」構成比%)は、「▲5」(前回は▲2)であった。

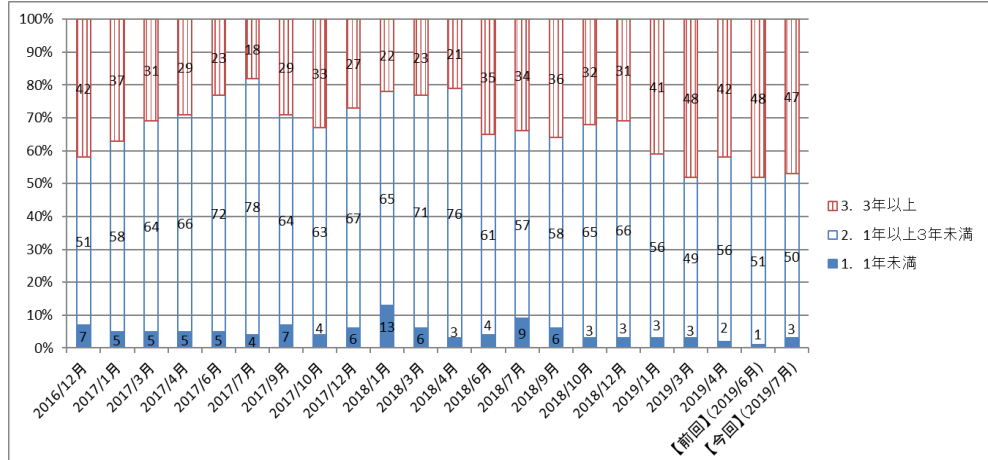


(ご参考)

【追加質問:Q5】

現状の金融緩和(オーバーシュートコミットメント含む)からの出口開始時期は?

1年以上3年未満と回答する先は50%(前回51%)、3年以上と回答する先も47%(前回48%)

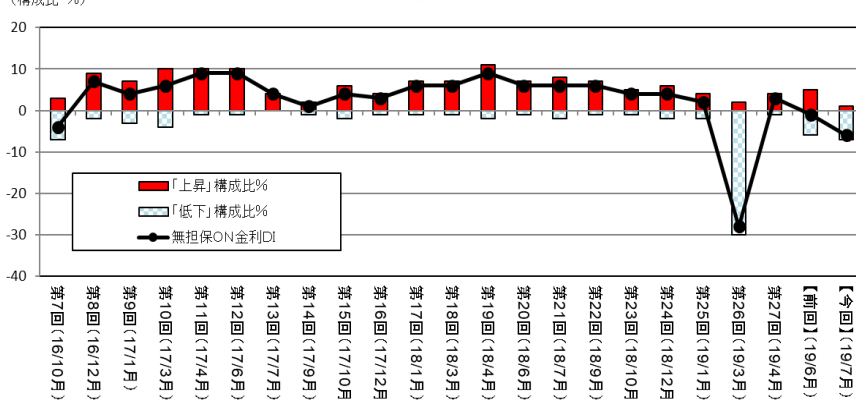


(Q2) 3か月先の無担保コールON金利は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の92%が「不変」と予想。7%が「低下」を予想、「上昇」とみている先は1%であった。

前回との比較では、「上昇」とみる先は▲4%ポイント(前回5%→今回1%)。「低下」とみる先は+1%ポイント(前回6%→今回7%)。「不変」とみる先は+3%ポイント(前回89%→今回92%)。

3か月先の無担保コールON金利(「上昇」-「低下」構成比%)



(Q3) 3か月先の「2年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

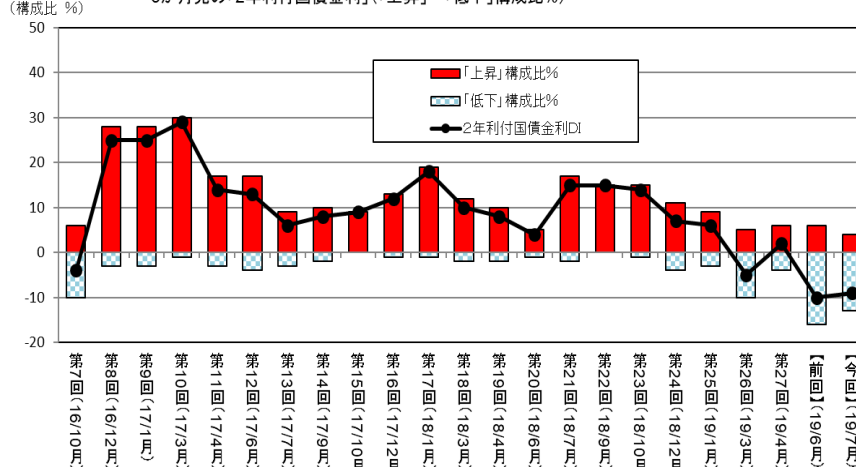
回答者全体の83%が「不変」を予想。「低下」を予想する回答者13%。「上昇」を予想した先は4%であった。

前回との比較では、「上昇」とみる先▲2%ポイント(前回6%→今回4%)

「低下」とみる先は▲3%ポイント(前回16%→今回13%)。

「不変」とみる先は+5%ポイント(前回78%→今回83%)。

3か月先の「2年利付国債金利」(「上昇」-「低下」構成比%)



(Q4) 3か月先の「10年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の76%が「不変」を予想。17%が「低下」、17%が「上昇」を予想した先は7%であった。

前回との比較では、「上昇」とみる先は▲4%ポイント(前回11%→今回7%)。

「低下」とみる先は▲3%ポイント(前回20%→今回17%)。

「不変」とみる先は+7%ポイント(前回69%→今回76%)。

3か月先の「10年利付国債金利」(「上昇」-「低下」構成比%)

